Photo Space

記録・創造・交流のための

Winter 2022 vol.6　2022.3.12 発行

ロゴデザイン：富樫茂美

現代写真研究所

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-12 ｻﾜﾉﾎﾞﾘﾋﾞﾙ 5.6F

03-3359-7611（TEL）03-3355-1462（Fax）

http://www.genken.ac

jimukyoku@genken.ac

責任編集　金瀬 胖

禁無断掲載 許可なく作品の使用はしないで

2 月 27 日、キエフが落ちるかもしれない、家にいるわけにはいかない、渋谷に行けば何かわかるだろう、と出かけた。他のグループは別として、ウクライナのひとたちは声を出さずプラカードを掲げ続けた。その視線は悲しく強かった。話かけることは沈黙の戦いを壊すと思い写真を撮らせてもらうだけにした。突然、女性が泣き出した。国でなにか起きたのだ。翌日、同じ現場で友人もそう言っていた。

2022 年 2 月 27 日　渋谷駅

教務主任　金瀬胖

今号は・・・

主に、2/23 に行われた全校写真を見る会に参加していただた作品と 2/14 に審査をした新春コンテストの作品をご紹介しています。

contents

2.3P　宮原咸太郎「凛二十歳への道程 - ばあちゃんとのふれあいー」

4P　矢野ふじね「街の樹」

5P　長谷川啓一「2021 年　印旛沼の秋」

6.7P　原田敏朗「多摩川散歩道中」

8P　榎本佳代「朝の旅」

9P　古澤潔　「雪の朝ぼらけ　そのⅡ」

10P　清水康子「150 年ぶりに姿を表した高輪築堤」

11P　原田敏朗「二年ぶりのふるさと祭り」

12P　吉久保和子「今どきの」

13P　赤塚ほしよ「淡き夢追い（荒川河川敷）」

14P　とみたやすよ「命の掟」

15P　長谷川啓一「境内新春」

16P　生田一美「リメイク」

17P　矢野ふじね「曇天新春の浅草」　石川晶「渋い年になりそう…」

18P　小林功「もうすぐ初日の出・三番瀬」　渡邉壮「う・ら・ら」

19P　飯塚明夫「隅田川クロニクル＃２

20P　金瀬胖「瓦礫の地層」

「凛二十歳への道程 - ばあちゃんとのふれあいー」 宮原咸太郎 （オンラインワークショップ写真講座）

おおばあちゃんが１００歳近く、ひ孫のリンが１０歳からの写真です。少しずつ記憶の薄れゆくおおばあちゃんに、”ばあちゃん、ばあちゃん”と言いながら小さなお姉さんぶり発揮して、面倒を見ていました。

全校写真を見る会より

「街の樹」 矢野ふじね（総合科）

写真を撮り始めるきっかけになった近所のメタセコイヤ、２年半ほど前に切られました。街の巨木は「人間の都合で切られず残る」「木自体が生き残る力を維持」という２つの幸運が必要ですが、こちらは力尽き後者の運がなくなったようです。「見る会」では 30 枚ではなく、枚数絞って紹介すべきだったかなと思ってます。

全校写真を見る会より

「2021 年　印旛沼の秋」

長谷川啓一（尾辻ゼミ）

千葉県の印旛沼地方で取材。「干拓（者）の夢」をテーマ（目標）にして、撮り始めて満 4 年目の、秋から暮れの写真です。

この土地は、江戸時代の利根川東遷事業以来、洪水、水害に悩まされてきた沼地・低水位地の水田地帯です。戦後の国土開発、コメ増産計画で、漸く干拓事業が進んで、1969 年に事業は完成して、住民の長年（約 300 年）の干拓の夢は達成されました。それから約 50 年経過して、住民（農民）の世代の交代は進み、世相は変わり、農機具の機械化、食料の国際競争、コメ余りなどの課題に直面して、住民の暮らしは変わらざるを得ない。

私は、干拓の達成に安堵して、現状の風景風俗をぼんやり観察する立場にとまっている訳にはいかないだろうと思いつつ、この地へ通っている。

全校写真を見る会より

多摩川散歩道中　原田敏朗（入江ゼミ・デジタル研究科）

　コロナ禍の中、行動範囲が狭くなりましたがカメラを友に週 2~3 回近隣の散歩に出掛けました。コースは、東西南北その日の気分で決まります。散歩の北限は多摩川。写真は多摩川の河川敷の様子です。

全校写真を見る会より

「朝の旅」

榎本佳代（総合科）

仕事がテレワーク中心になった事で通勤時間はご近所の朝を旅する時間になりました。遠くに行く事に制約の多い今ですが、朝の時間を繋ぎ合わせて日常離脱の旅をしている気持ちになっています。

全校写真を見る会より

新春コンテスト・特選

「雪の朝ぼらけ　そのII」（3枚組）

古澤潔（土曜ゼミ）

新春コンテスト　準特選

「150年ぶりに姿を現した高輪築堤」（5枚組より）

清水康子（英伸三連続講座・デジタル研究科）

新春コンテスト　準特選 _

二年ぶりのふるさと祭り（5 枚組より）

原田敏朗（入江ゼミ・デジタル研究科）

新春コンテスト　入選
「今どきの」（3枚組）
吉久保和子（英伸三連続講座）

新春コンテスト　入選

「淡き夢追い（荒川河川敷）」（4 枚組より）

赤塚ほしよ（飯塚ゼミ）

新春コンテスト　入選

「命の掟」（単）

とみたやすよ（日曜撮影専科）

新春コンテスト　入選

「境内新春」（5枚組より）

長谷川啓一（尾辻ゼミ）

新春コンテスト　佳作

「リメイク」（5 枚組より）

生田一美（尾辻ゼミ）

新春コンテスト　佳作
「曇天新春の浅草」（5 枚組より）
矢野ふじね（総合科）

新春コンテスト　入選
「渋い年になりそう…」（単）
石川晶（総合科）

新春コンテスト　佳作

「もうすぐ初日の出・三番瀬」（単）　小林功（尾辻ゼミ・デジタル研究科）

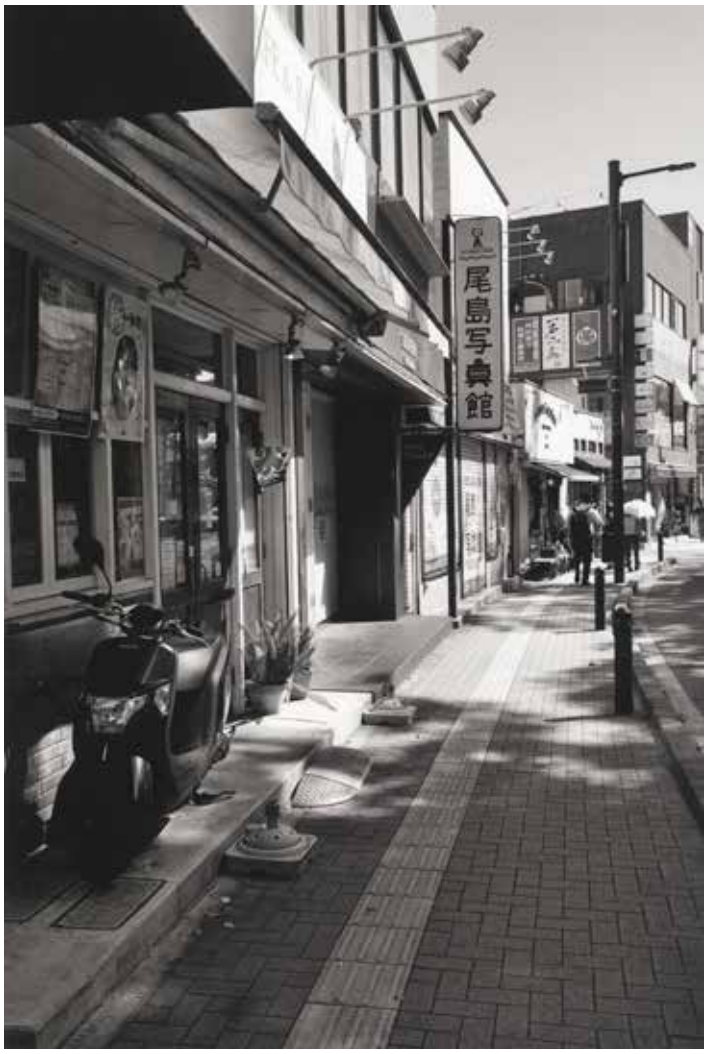
新春コンテスト　佳作

「う・ら・ら」（単）渡辺壮（金瀬ゼミ）

新春コンテスト　佳作

「逗子」（5 枚組より）

木﨑昭（金瀬ゼミ）



隅田川ー岸辺のクロニクル＃ 2

2011 年 2 月 14 日 14 時 6 分 27 秒
撮影：飯塚明夫

「クロニクル」は年代記・記録・物語の意味。
「撮影の時刻」、「岸辺の景観の記録」、
「岸辺に集う一人ひとりが心に刻む小さな物語」の思いを込めた。

2022.2　船橋

瓦礫の地層

2011 年、上流にセシウム汚染のスポットがあり、ほとんどの人が田圃を手放し
いま工事の残土などで埋め立てられて、その上に投棄ゴミが重なる。
市の計画ではこの瓦礫の地層の上に新しい街が出現する。

金瀬胖

自衛隊の創立記念式典に向かうバズーカ砲隊　神宮外苑 1969 年

© 英伸三

オンライン特別公開講座

ドキュメンタリー写真家　**英 伸三**

シリーズ（3）何を撮るか、なぜ撮るか！（聞き手　尾辻弥寿雄）

《一所懸命の時代》
戦争の影と高度経済成長の付け

日本経済がめざましい成長を遂げた 1960 年代、1968 年としあけ早々の 1 月 19 日、アメリカ原子力空母エンタープライズが、全国から結集した労働者、学生、市民 5 万人の激しい抗議行動のなか、長崎県の佐世保港に寄港した。10 月には自衛隊が創立 18 周年を記念して、東京の神宮外苑で数万の観衆の前で、陸・海・空約 4,800 の隊員による大デモンストレーションを展開、外苑内を観閲行進したあと、戦車隊が都心をパレードした。日本を戦略体制上の核基地にしようとするアメリカと軍備の強化を進める日本。産業界では石油エネルギーへの転換による炭鉱の閉山が続き、一方では原子力発電所の建設が各地で進められた。《一所懸命の時代》の後半は、平和と安全を脅かす日米の動きと、経済成長がもたらした公害や列島改造による乱開発の状況、一例としてその影響を受けた瀬戸内海の自然環境の変化などを伝えます。

© 英伸三

炭鉱の閉山式　長崎県埼戸町　1968 年

4 月 2 日（土）18：00 ～ 20：00

視聴お申込み方法

参加費　500 円

下記 URL より視聴のお申込みをお願いします。

(peatix) http://ptix.at/jFWGOx

3/25 までに Zoom 視聴できる URL をメールで送ります。

主催：現代写真研究所　事務局

03-3359-7611　jimukyoku@genken.ac

ホームページ　http://www.genken.ac/

twitter　GENKEN_PHOTO 随時情報配信中

オンライン特別講座はシリーズで配信を予定しています。

英伸三プロフィール

1936 年千葉市生まれ。

農村問題などを通して日本社会の姿を追い続け、1992 年から中国の改革開放政策による変貌を追っている。伊奈信男賞など受賞。写真集『一所懸命の時代』近著「モンローの皺」など多数。JPS 会員、JRP 代表理事。現代写真研究所所長

現代写真研究所主催　ワンコイン特別公開講座

紡績工場の新人社員の歓迎会
三重県津市　1971 年
© 英伸三

オンライン特別公開講座

ドキュメンタリー写真家　英伸三

シリーズ（2）何を撮るか、なぜ撮るか！（聞き手尾辻弥寿雄）

《一所懸命の時代》　人々は輝いていた

中学の卒業式もそこそこに故郷を離れる集団就職の少年少女。一日の仕事を終えたあと、油まみれの作業着姿で社長と春闘の賃上げ交渉をする町工場の若い労働者。国鉄の合理化計画にストライキで闘い、早朝の操車場でピケを張る国労の組合員。

日本経済がめざましい成長をとげた 1960 年代の後半、私が取材先で出会った人びとは、仕事にも闘いにも、一所懸命だった。みんな貧しかったが、現実をしっかり見つめ、勇気をもって行動すれば、きっと今よりましな暮らしができるようになると言い聞かせながらがんばっていたのだろう。みんな全身に力がみなぎり、目が輝いていた。

今回は 60 年代から 80 年代にわたって取材した出来事のなかから、労働者、戦争、自然環境を 2 回に分けてとりあげ、みんなが一所懸命だったあの時代を振り返ってみたいと思います。前半は、労働者と労働条件改善の闘いを中心にお伝えします。

3 月 26 日（土）18：00 ～ 20：00

© 英伸三
建設中の多摩ニュータウン 1972 年

視聴お申込み方法

参加費　500 円

下記 URL より視聴のお申込みをお願いします。

(peatix) http://ptix.at/U1ILhX

3/25 までに Zoom 視聴できる URL をメールで送ります。

主催：現代写真研究所　事務局
03-3359-7611　jimukyoku@genken.ac

ホームページ　http://www.genken.ac/

twitter　**GENKEN_PHOTO 随時情報配信中**

オンライン特別講座はシリーズで配信を予定しています。

英伸三プロフィール
1936 年千葉市生まれ。
農村問題などを通して日本社会の姿を追い続け、1992 年から中国の改革開放政策による変貌を追っている。伊奈信男賞など受賞。写真集『一所懸命の時代』近著「モンローの皺」など多数。JPS 会員、JRP 代表理事。現代写真研究所所長

現代写真研究所主催　ワンコイン特別公開講座

自衛隊の創立記念式典に向かうバズーカ砲隊　神宮外苑 1969 年

© 英伸三

オンライン特別公開講座

ドキュメンタリー写真家　**英 伸三**

シリーズ（3）何を撮るか、なぜ撮るか！（聞き手　尾辻弥寿雄）

《一所懸命の時代》
戦争の影と高度経済成長の付け

日本経済がめざましい成長を遂げた 1960 年代、1968 年としあけ早々の 1 月 19 日、アメリカ原子力空母エンタープライズが、全国から結集した労働者、学生、市民 5 万人の激しい抗議行動のなか、長崎県の佐世保港に寄港した。10 月には自衛隊が創立 18 周年を記念して、東京の神宮外苑で数万の観衆の前で、陸・海・空約 4,800 の隊員による大デモンストレーションを展開、外苑内を観閲行進したあと、戦車隊が都心をパレードした。日本を戦略体制上の核基地にしようとするアメリカと軍備の強化を進める日本。産業界では石油エネルギーへの転換による炭鉱の閉山が続き、一方では原子力発電所の建設が各地で進められた。《一所懸命の時代》の後半は、平和と安全を脅かす日米の動きと、経済成長がもたらした公害や列島改造による乱開発の状況、一例としてその影響を受けた瀬戸内海の自然環境の変化などを伝えます。

© 英伸三

炭鉱の閉山式　長崎県埼戸町　1968 年

4 月 2 日（土）18：00 ～ 20：00

視聴お申込み方法

参加費　500 円

下記 URL より視聴のお申込みをお願いします。

(peatix) http://ptix.at/jFWGOx

3/25 までに Zoom 視聴できる URL をメールで送ります。

主催：現代写真研究所　事務局
03-3359-7611　jimukyoku@genken.ac

ホームページ　http://www.genken.ac/

GENKEN_PHOTO 随時情報配信中

オンライン特別講座はシリーズで配信を予定しています。

英伸三プロフィール
1936 年千葉市生まれ。
農村問題などを通して日本社会の姿を追い続け、1992 年から中国の改革開放政策による変貌を追っている。伊奈信男賞など受賞。写真集『一所懸命の時代』近著「モンローの皺」など多数。JPS 会員、JRP 代表理事。現代写真研究所所長

現代写真研究所主催　ワンコイン特別公開講座